

医療通訳者と発展途上国での医療

同志社中学校3年 岩本 蘭

私には2つの夢がある。

1つ目は、発展途上国で医者として活動したいという夢だ。

小学生のときに6年間、ガールスカウトでユニセフ募金をした。世界にはお金がなくて医療を受けられない人もいて、ということを伝えながら募金を呼びかけて回った。私が持っていた募金箱には、「100円でできること」と題して、100円で買える薬や救援物資の量が書かれていた。募金は発展途上国で貧しい子どもたちの治療をしたり薬を買うために使われることを知った。小さい子どもが自分のお小遣いの中から「お姉ちゃん、ちょっとしかないけど募金するね。」と募金箱にお金を入れてくれたこともあった。そんな経験をして、私も発展途上国で皆さんから預かった募金を治療のために役立てたいと思った。

しかし、医療技術が十分に発達していない発展途上国で薬と治療を援助する際、病気や薬の副作用の説明が十分にできるだろうかという疑問に思った。現地の言葉を話すことができ、更に進んだ知識を持っている人は少ない。物資だけを援助するのではなく、外国で治療を行うときには、その国の言語で患者と話すことができる医者が必要だと感じた。だから、いろいろな国の言葉を勉強しなければならないと思った。

2つ目は、日本で医療通訳者として活動するという夢だ。私がこの夢を抱いたのは最近のことだ。

医療通訳者とは、医療現場で、その国の言葉が分からない患者や家族に通訳をする人だ。ほとんどの人がボランティアである。交通費しか出してくれなかったり、1500円程度の謝礼だったり、なかなか暮らしていけるだけの給料を払ってくれるところはない。給料を病院側が払うのか患者側が払うのかを定めた法律もない。医者と同じくらいの専門的な知識と、相手に分かりやすく伝える語学力。この2つが医療通訳者には必要だ。そんな、人の命を預かる大切な職業なのに、日本では資格も必要なく、制度化もしていない。通訳

者が二次感染したときの保証などもない。ボランティア自体の人数も少なく、患者の子どもが通訳をすることも珍しくない。日本の学校に行っていて、日常的な会話程度ならできるからだ。当然ながら、子どもは専門的な医療の知識など持っていない。

今、中学生の私が外国語を話せたとして、果たして病気のこと、病名や手術の方法を正確に相手に伝えられるだろうか。多分無理だろう。医療文化も国によって違い、納得のいく説明をしなければならない。実際、現場では互いの考えが上手く伝わらないことが多く、同意もなしに子宮を摘出された女の子の例がある。患者は、心身の不調に加えて、言葉がわからない不安も抱えている。十分な通訳をしてくれる人がいない場合、聞きたいことも聞けないだろう。取り返しのつかないことになる可能性も少なくない。働いている外国人は、会社から通訳と一緒に来る場合があるが、労災隠しをしたり怪我をした状況が正確に医者に伝えられないという問題が起き、今、中立な“職業”としての通訳者が必要とされている。

今までは、日本は医療技術がすすんでいて、優秀な医者や良質な薬もあり、恵まれた環境だと思っていた。しかし、ニュースを見てその考えは間違いだったと気づいた。日本でも「言葉の壁」が原因で満足のいく治療を受けられない人がいることを知った。今までは、国際的な仕事というものは外国でしかできないと思い込んでいた。しかし、日本でもできる仕事があり、今すぐにでも必要とされているということを知った。外国から日本で高度な治療を受けるために来る人もいれば、在日外国人の方もいて、医療通訳者のニーズは高い。しかし、人材が不足している。

私は1つ目の発展途上国で医者として活動するという夢のためには日本で経験をつむことが必要だと思っている。それには相当な時間がかかり、その間は困っている外国人の方々に何もすることができないというもどかしさを抱えていた。しかし、日本での医療通訳の仕事なら日本にいながら言葉の壁に苦しむ人の役に立ち、そして医療の現場に携わって経験を積むこともできる。目の前に新たな道が開けたような気がした。

大学を出て、医療通訳者として日本で活動する。発展途上国で医療を行う。この2つの夢。私がどちらの夢を選ぶのかはまだわからない。両方の夢をかなえるかもしれない。医療通訳者は、患者と病院の間に立ち、まるで双方が直接話をしているかのようにスムーズ

に通訳をして、自分の意見や感情を交えてはならない。そのためには、豊富な語彙と表現力、そして客観的な視点が必要だ。発展途上国で医療を行うには技術だけではなく患者と対等な立場に立ち、不安を取り除くような接し方で、納得のいくような説明をしなければならない。つまり、語学力だけではなく、外国人だからといって差別せずに、人の心に届く話し方をすることが大事である。今は学校での英語の勉強や他の教科の勉強を通じてコミュニケーションの練習をしたり、日本と他国との文化の違いを学んでいこうと思った。